

学校関係者評価報告について

専修学校熊本YMCA学院
学院長 光永 尚生

専修学校熊本YMCA学院では、すべての教育内容や通常の業務において、現状を点検し、更なる改善・向上を図っていくため自己点検・評価に取り組み、「学校評価報告書」を取りまとめ、本校ホームページ上で公表いたします。

去る2024（令和6）年6月に、学校関係の知見が深い方々を中心にご意見等を伺い、今後の教育活動や学校運営に反映させるべく、学校全体に係る「学校関係者評価」を実施いたしました。学校関係者評価委員会では、多くの貴重なご意見やご指導をいただき感謝申し上げます。

また、あらためて学校評価の重要性を認識したところです。ここに、学校関係者評価の内容につきまして報告いたします。今後とも、より良い学校運営を目指し、教職員一同努力して参る所存であります。引き続き一層のご支援、ご協力をお願い申し上げます。

記

1. 「学校関係者評価」の実施方法について

今回の学校関係者評価は、文部科学省が策定した「専修学校における学校評価ガイドライン」を踏まえた評価項目に沿って実施し、本校の「2023年度 自己評価」について、専門学校に関係の深い評価委員に評価していただいた。

各評価委員には、学習の成果についての報告を行い、委員会にて意見等を聴取した。その内容等について要約の上、報告書として取りまとめた。

2. 委員

	氏名	所属	専任区分
外部 関係者	村上 泰浩	元崇城大学 工学部 建築学科 教授	有識者
	櫻井 孝一	元ANAクラウンプラザホテル熊本ニュースカイ	企業
	本田 あずさ	社会福祉法人 恩賜財団 済生会熊本病院 診療情報管理士	卒業生
	渡邊 裕晃	卒業生 元保育士	卒業生
	丸目 陽子	公益財団法人熊本YMCA みなみグローバルコミュニティセンター館長	団体
	光永 尚生	専修学校熊本YMCA学院 学院長	職員

3. 委員会

日時：2024年6月25日（火）19：00～20：30

（1）開会 学院長挨拶

（2）議長選出 渡邊裕晃委員

(3) 2023年度学習の成果及び自己評価

○2023年度教育目標に対する成果について

- ・ コロナウイルス感染症から日常に戻りつつある中、各地での紛争や様々な社会課題の状況など混とんとする世の中にあって、経済的な影響を大きく受けた業界や業種の情報を得ながら、就職活動や通常授業、施設見学や卒業生講話、業界人との交流などを実施。また、学びの集大成としての卒業制作など実施した。
- ・ 検定合格率平均70%の目標に対して、実績は62.9%であった。資格取得にチャレンジしたが目標に達しなかった。
- ・ 対人関係能力やマナー教育等のキャリア教育を進め、全体就職率100%、各専門分野の就職率も高い数字を達成することができた。
- ・ 自立した社会人養成のために、ボランティアや地域社会での活動に積極的に参加する機会を作り、学生たちの成長の機会を提供した。
- ・ 学科担当及び学校全体での丁寧な学生ケア、日常的な相談の機会を作り、退学率を抑制する努力をし、昨年より退学者を減らすことができた。退学率4% (昨年比-8%)

○2023年度学校自己評価集計表について

全体的に自己評価のポイントは減少。

教育理念・目標について

- ・ 教育理念や目的は明確であるが、5学科あることでの伝わりづらさ、学科の教育目標や人材育成についての改善が必要とみられる。

学校運営について

- ・ これまで以上に授業以外の学生対応の時間が必要となっている。学生支援体制など検討する必要がある。
- ・ 人材不足と専門性の課題から、人的体制と業務量に偏りが見られる。業務内容の見直し、見える化が必要である。
- ・ コミュニケーション不足による課題がある。日常的な確認や職員間のコミュニケーションの改善が求められる。

教育活動について

- ・ システムや体制はできているが、実施方法や活用ができていない。職員、講師の専門分野のスキルアップや研修の機会が必要である。

学修成果、学生支援について

- ・ 就職希望者の就職率100%。
- ・ 就職に対しての意識が高い学生と低い学生の差が顕著である。
- ・ 早い段階でのキャリア教育をさらに進める必要性がある。

教育環境について

- ・ 教室の不足、十分な広さの確保ができていない。より良い環境改善と効率よい運営を図っていく。

学生の受け入れ募集について

- ・ 大学全入時代、18歳人口減、高卒の就職好調の中での選ばれる専門学校の在り方をさらに研究する必要がある。
- ・ SNS活用やシステム的な改善も行っていく。

社会貢献・地域貢献について

- ・ 地域住民の健康づくりや子どもたちの支援、国際的な経験を継続して行うなど、学生たちの社会貢献の場をつくり地域とのつながりを強めていきたい。

(4) 質疑応答および意見

- ・ YMC A学院の状況が詳しく確認できた。課題と改善策について共有しよりよい学校運営を行って欲しい。
- ・ 昨年に続き出てきている課題が継続されているものは再度見直す必要がある。
- ・ 昨年は新校舎効果にて心理的にも高揚し、評価は上がっているのではないかと。3年分の評価を見て欲しい。
- ・ 職員のキャリアの違いにより、ストレスの傾向があるのではないかと。
- ・ 課題をわかりやすくし、チームで改善していくことで達成感につながっていく。
- ・ 課題・目標を設定し、四半期ごとに振り返り、改善できたこと、継続していくことを確認し、取り組んでいくことも参考にして欲しい。
- ・ 保育現場においては、現在、人手不足が顕著である。新人から職員1名として期待されている。
- ・ 各業界の現場では、研修の段階で離職する新人が増えてきている。学生時代の学びと現実のギャップを感じている新入職員がいる。実習の期間をもう少し長くできないだろうか。
- ・ 職員の「教育」が難しくなっている。特に若い世代の理解など、年長者の理解も必要である。
- ・ 教育における大切なことは「平和教育」である。平和をどう創り上げていくか、世界の平和をリードしていくのは日本ではないか。日本の将来にとってとても大切であり、そのことはYMC Aに期待されているのではないかと。
- ・ 熊本は特に、国際化が進む中、海外企業の進出はじめ国際的なビジネスが活況の状況、それに応えることは学校としても重要になる。
- ・ アンケートを取るだけでなく、組織として応えることで職員のモチベーションの向上につながる。
- ・ 教育の質の向上について、教職員だけでなく、実習現場のあるYMC Aだからこそ教職員以外からも教育していただく機会をもっと持つことが重要である。

(5) 閉会

本校における評価を真摯に受け止め、教育の質の向上、人材育成、留学生の受け入れ対応、社会人の学び直しを推進すべく平和教育や国際性を進めていき、評価すべき取り組みは継続し、課題や改善点を整理し、改善方策を検討していく旨、報告があった。

以上